

しよめい	ちょしや	しゅっぱんしや	せいぎゆうきこう	ないよう
うちのねこちゃん 松谷みよ子あかちゃんのわらべうた	松谷 みよ子 // 著 小沢 良吉 // 画	偕成社	Sエホン	うちのねこちゃんはおしゃれすき。おしろいつけてべにつけて、おつかいになりました。けれども、うちのねこちゃんはおつかいのことなどすっかりわすれて、あそびをさそいでやってきたとらねこといっしょにはらにいてしまいました。そのうち、つきものほってきて、2ひきはならんでつきをながめていましたよ。
にゃんきっちゃん	岩合 日出子 // 文 岩合 光昭 // 写真	福音館書店	489.5	にゃんきっちゃんはまっしろいねこ。おそとでひなたぼっこをしたり、ちかくにやってきたカエルをながめるのがだいすき。よこになっているときはのんびりしているけれど、ねてばかりじゃないんだ。かれはにうもれてかくれんぼ、ゆきのふるなかおさんぼにだてていくよ。だんだんさむくなってきた。そろそろおうちのなかにはいるじかんだよ。
ねこくんいちばでケーキをかった ロシアのわらべうた	ユーリー・フスネツォフ // 著 たなか ともこ // 編訳	岩波書店	エホン	赤ちゃんによく歌われるわらべうた。「ねこくんいちばでケーキをかった」はロシアのわらべうたで、この本ではわくわくするうたがたくさんついています。ねこ、うま、ことりなど、みなさんのよくなっていろいろでできます。美しいイラストが楽しい気分させてくれます。もしかしたら、あなたの知っているうたもついているかもしれません。
なまえのないねこ	竹下 文子 // 著 町田 尚子 // 画	小峰書店	エホン	ぼくは、ねこ。くつやのねこは「レオ」、ほんやのねこは「げんた」。まちのねこたちにはみんななまえがあるのに、ぼくは「ねこ」のまま。いいな、なまえほしいな。ぼくはなまえをさがすことにした。かんばん、やじるし、くるま、どれもちがう。ほんじつとくはい、もっとちがう。そして、あまやどりをしていたそのとき、ぼくをよんでくれるひとにであつたんだ。
いぬねこせかい地図絵本	高井 シロル // 編著	カンゼン	645	いぬ、ねこはすぎですか？ひとくちにいぬやねこといっても、かわい、おおい、けがな、いぬなど、しゅるいによってとくちようがぜんぜんちがいます。このほんでは、せかいじゅうのいろいろなしゅるいのいぬやねこがどうしょうします。だいすきなあのねこはなんというしゅるいかな？しらべていぬねこはかせになってみましょう。
わたしねこがきたいの	ミシェル・ロビンソン // 著 チンロン・リー // 画 三原 泉 // 訳	岩崎書店	エホン	じぶんのねこがほしいおんなのこのところに、おばあちゃんのねこのヘクターがたくさんのおともだちをつけてやってきました。おんなのこはいちにちじゅう、ねこたちをだっこしたり、なでたりしてあそびました。ところが、ねこたちにはかいぬしがいて、もとのおうちにかえりませんが、1ひきだけのこたねこがいました。そのねこは、おんなのこのへやにあるひきだしの中に入れてできません。
でるでるでるねこさらい	高谷 まちこ // 著	佼成出版社	エホン	ねこのマツは、ばけものやしきに住んでいる。マツはたくさんばけものとなかよしだ。ところがあるばん、くろいもがやってきて、マツがさらわれてしまった。ばけものたちがくろいもをおいかけると、あるおやしきにはいっていく。ネズみめというわものおやしきだ。マツをたすけるため、ばけものたちはちがらをあわせる。
二二、まいごになる	アナタ・ローベル // 著 まつかわ まゆみ // 訳	評論社	エホン	おうちのなかは二二にとって、いごちのいいしょでした。あるひ、二二はにわにでてみました。たのしくてどんとおくへあるいていくと、とうとうもりまできてしまいました。ひがくると、二二はきけんをかんじておうちにかえりたくなくなりました。そのとき、とおくのほうから、二二をよぶだいなこえがきこえました。シリーズに、「二二のゆめのたひ」もあります。
とねりこ通り三丁目 ねこのこふじさん	山本 和子 // 著 石川 えりこ // 画	アリス館	9-0	西洋館に住んでいるこふじさんのおばあちゃんは、一年かけて世界中を旅することにしました。でも、西洋館のすばんはどうしたらいいでしょう。すこしやんでから、こふじさんにおねがいすることにしました。お家典は月に一度その月らしい行事をすること。それを手紙で報告すること。こふじさんはどんな一年をすごすのでしょうか。
本屋さんのルビねこ	野中 柊 // 著 松本 圭以子 // 画	理論社	9-0	ルビは本棚に積もったほりこりでした。ある日、ひゅう！と風がふいて、ふわふわころころ転がって、小さな子ねこになりました。ねずみと間違うくらい小さかったので、本屋の店主モシモさんは、子ねこに「ルビ」という名前をつきました。(ルビは漢字などの上に小さくふられたよみがなのこと)ルビは店で図鑑を読んだり、魚屋のねこ「チップス」と出会うたり、すてきな日々をすごします。
ぼくはネコのお医者さん ネコ専門病院の日々	東 多江子 // 文	講談社	645	人は病気になったら病院にいきます。では動物はどうでしょうか。じつは動物のための病院があるのです。この本はネコ専門の病院のおはなしです。ネコはどこが痛いか話してくれませんか。お医者さんをこわがってひっかくこともあります。それでもお医者さんはネコを診察し、病気をなおそうとします。
すてねこたちに未来を 小学校4年生の保護ねこ活動	菅 聖子 // 著	汐文社	645	私たちの身近にいる猫。世間にはノラやまいこ、飼い主の事情で飼えなくなったなど、いろいろな理由で住む場所を失ってしまった猫たちがいます。この本ではそんな子たちを世話している小学校4年生の女の子の保護活動が紹介されています。1匹でも多くの猫が幸せになれるよう、小さな命を守る強い気持ちでひしひしと伝わってきます。